

て  
つくり手が

て  
つかい手の

ユニバーサル  
デザイン  
ガイドブック

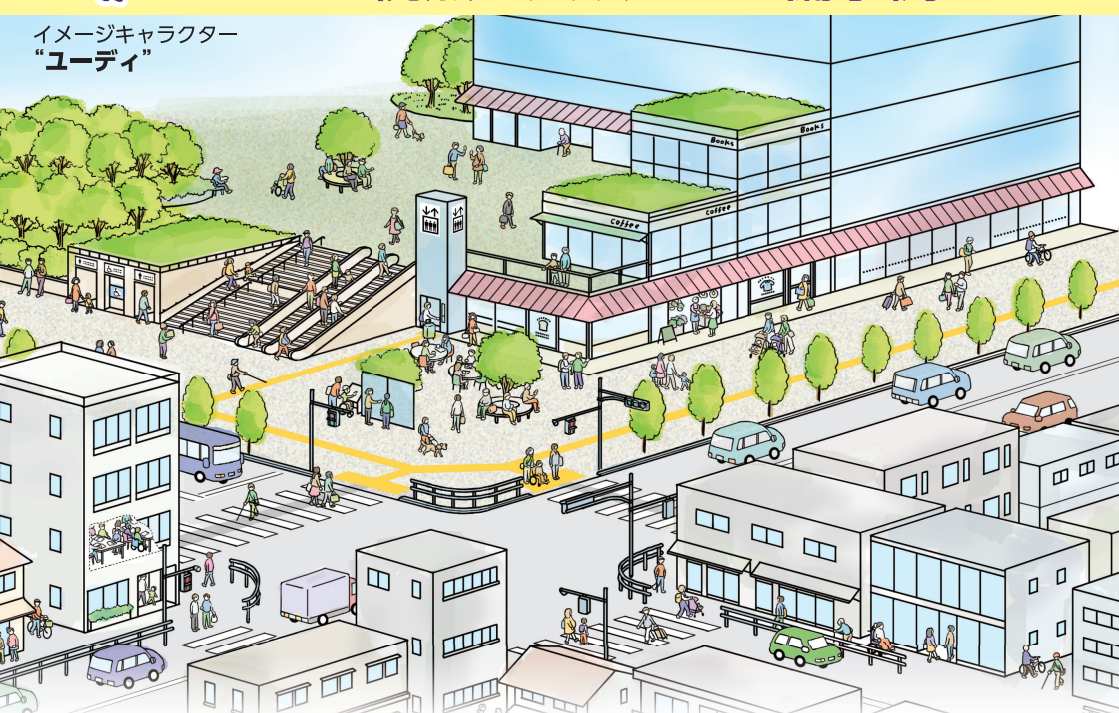
7



# ニーズを反映

してん はんえい せいびじれい  
— UDの視点を反映した整備事例 —

イメージキャラクター  
“ユーディ”



この冊子では「つくり手」とは、事業主、設計者、施工者、施設などの管理者です。  
「つかい手」とは高齢者、障害者、外国人、子ども連れの人などの利用者です。

## “ユニバーサルデザイン (UD)”とは…

年齢、性別、国籍、個人の能力等にかかわらず、できるだけ多くの人が利用できるような生活環境その他の環境を作り上げることです。

# UDの施設整備では、

## つかい手のニーズを 取り入れることが大切です

体験談

さまざまな  
つかい手に聞いて  
ニーズが  
よくわかりました！

さまざまなニーズを  
知るために、  
**つくり手** と **つかい手** が共に  
体験し、考え、ニーズを整理し、  
施設整備に反映させます。



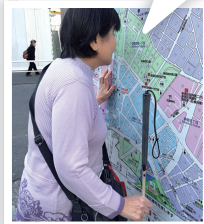
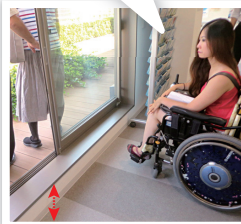
(設計者)

段差があるから  
屋上庭園に  
出られないわ…

日本語しか  
ないので、  
探せないわ…

歩道と敷地内の  
誘導用ブロックが  
連続していないので、  
入口まで行けません

これだけ  
近づかないと、  
読めません…



体験談

**つかい手** のニーズを直接伺いました。

障害のある人など、さまざまな人から施設の使い方について話を聞いたことがなかったので、ワークショップ※に参加して、直接話が伺えて、大変参考になりました。今まで気づけなかったニーズを知ることができました。

※ワークショップについてはガイドブック⑥「ニーズの共有」を参照してください。



(設計者)

# 快適に移動できる経路

車いす使用の人、目が不自由な人、ベビーカーを使っている人、大きな荷物を持っている人など、だれもが快適に移動できるよう、傾斜のない歩道など、バリアフリーの経路を整備しています。



傾斜有



傾斜無

## 車いすで転回できる 広い通路



## 歩道から建物の 出入口まで連続誘導



## 大きな庇のある通路



## 段差のない出入口



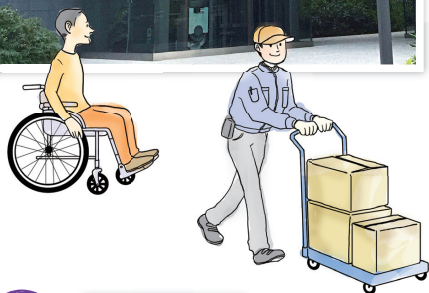


# 上下移動の設備

上下階の移動や、高低差のあるまちの中で、さまざまな人が移動しやすくなるように、エレベーターやスロープの整備が進んでいます。

つかい手が、自  
合わせて、選択  
大切

## 高低差のある場所をつなぐ エレベーターを設置



## 庇のあるスロープを 連続的に整備



## 階段の横にエスカレーター 奥にはエレベーターを設置



### ガイドブックシリーズ④ UDで整備されたものの有効活用

まちの中にあるUDで整備されたものを有効に使うために、どのようにすれば良いのか紹介した冊子です。



分のニーズに  
できることが  
です。

# えら つか 選んで使えるトイレ

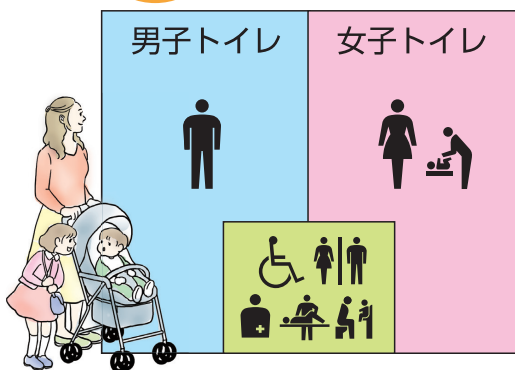
多機能トイレは、さまざまな利用者が集中します。このため、利用者が分散するように機能を分散して整備するなど、つかい手が選んで使えるように整備することが大切です。あわせて、わかりやすいサインや選びやすいデザインにする必要があります。

混雑の  
原因

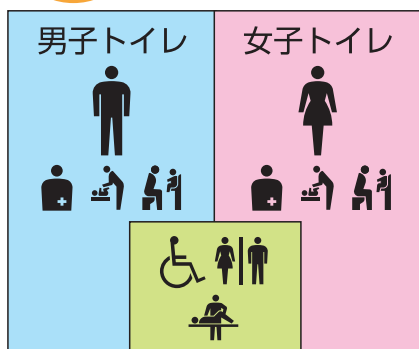
多機能トイレに  
機能が集中

選択  
できる  
トイレ

一般トイレに  
機能を分散など



機能を  
分散させる



フロアによって、L型手すりの位置（左右）や、多目的シートやオストメイト対応が選べるだれでもトイレ

大きな荷物を持った人や、幼児と一緒に使える少し広めの一般ブース

多機能トイレ  
ご案内

5階	
4階	
3階	
2階	
1階	



# わかりやすい案内設備

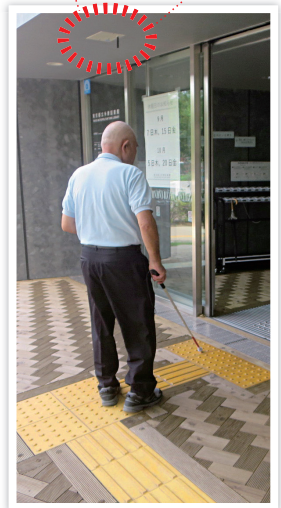
文字が見えにくい人や高齢の人、子どもや外国人など、さまざまなつかり手に伝わる案内設備が望まれます。

案内サインやピクトグラム※では、盤面と文字の色をはっきりと対比させ（濃い盤面に白い文字など）、読みやすい書体（ゴシック体など）や読みやすい大きさにするとわかりやすくなります。

## わかりやすい色対比の案内サイン

各階案内		Floor information
2階	図書館	Library
1階	特別出張所	Branch Office
地下1階	駐車場	Parking

## 出入口やトイレの位置を音声で案内



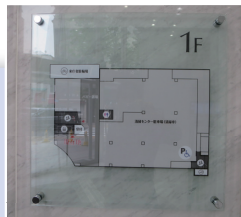
## 大きくてわかりやすいピクトグラム

※言葉によらない、目で見るだけで案内を可能とするもの。

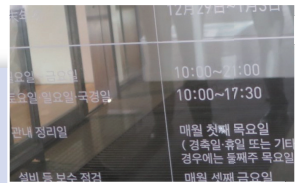


## 読みにくい表示の例

実際に使ってみると読みにくい案内サインを見かけます。



光の反射により、見えにくくなります。

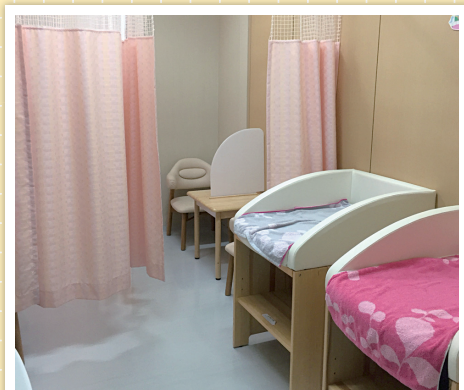


ガラスに白文字はほとんど読めません。工夫が必要です。

まだまだあります！

## つかい手のニーズを取り入れた整備事例

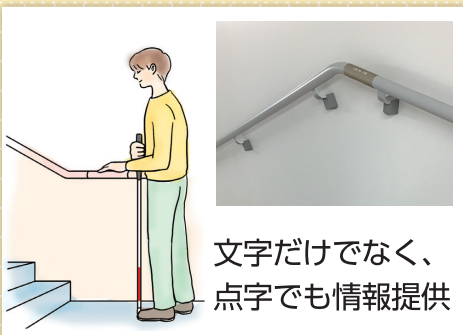
高齢者、障害者、子ども連れの人、外国人などのつかい手のニーズに配慮した施設が増えていきます。



男性でも子どものおむつを交換できるように、女性のためのエリア（授乳エリア）と分けて整備



だれもが休憩できるスペース



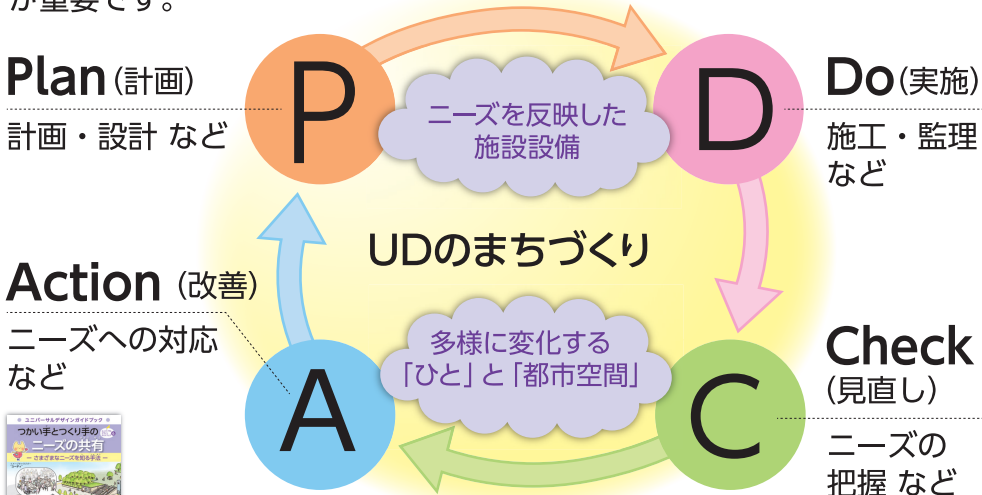
文字だけでなく、点字でも情報提供

つかい手と共に体験し、考えると、今まで気づかなかつたさまざまなニーズに気づきます。つかい手のニーズを取り入れたUDの施設整備が進めば、UDのまちづくりは広がっていきます。





UDのまちづくりを目指すためには、つかい手の視点で継続して改善に取り組むことが重要であり、多様に変化していく「ひと」と「都市空間」のニーズに対応していくことが求められます。つかい手の視点から、**Plan** (計画)、**Do** (実施)、**Check** (見直し)、**Action** (改善) のサイクルで、UDのまちづくりの取組みを見直し、継続して改善する姿勢を持つことが重要です。



\*ユニバーサルデザインガイドブック⑥と合わせてご覧ください。

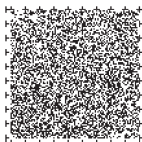
編集・発行 新宿区 都市計画部 都市計画課  
 〒160-8484 新宿区歌舞伎町1-4-1  
 電話：03-5273-3527 FAX：03-3209-9227

新宿区 UDのまちづくり 検索

写真提供 西富久地区市街地再開発組合  
 デザイン 株式会社アークポイント・有限会社レゾナ  
 イラスト 白玉社 杉野悦子



この冊子は区民参加のワークショップで検討しました。



左のコードは目の不自由な人などへの情報提供に役立てられている音声コードです。横の切欠きは音声コードの位置を示します。

印刷物制作番号  
 2017-22-4001

平成30年3月